

MC-1

落語+哲学カフェ

第一会場 (Q302)

10:00-12:00

produced by なごテツ

テーマ：鹿政談

定員：12名

進行役：荒井豊

鹿政談（しかせいだん）は古典落語の演目の一つ。

かつて神獣と呼ばれた奈良の鹿

もし誤って殺害すれば死罪

ご想像通りの名奉行ネタ

名人が演ずる1席を鑑賞すると

どんなことを話したいと感じるのでしょうか？

今回は鹿政談を鑑賞してから始める哲学カフェです。

どうぞお気軽にご参加ください。

テーマ：下記の(1)と(2)いずれかをします。

どちらにするかは当日の状況で決めさせていただきます。

(1)当日の参加者でテーマを決めます。

(2)「哲学カフェ」をメタ・メタに

考える。

定員：特になし

進行役：philosophy愛知

(1)テーマは当日の参加者から出し合って、そのなかから決めます。p4c（子どもの哲学）の方法に則った方法でします。論争や自分の言いたいことばかりになりがちな、大人の哲学カフェですが、哲学対話の考えかたやマナーを身につけるのには、子どもの哲学から学ぶことが多くあります。

(2)哲学カフェについて感じているモヤモヤを出しあい、モヤモヤしてしまう当人の前提にまで遡って考えます。哲学カフェで起きていることに違和感やズレや疑問などを感じたことを話し合う、いわゆるメタ哲学カフェもやりながら、違和感が生まれる前提まで遡って考えます。哲学カフェの参加経験があり、哲学カフェにモヤモヤすることがある方向けです。

MC-2

哲学カフェ愛知 の出前

第三会場 (Q308)

10:00-12:00

produced by 哲学カフェ愛知

MC-3

学校で哲学対話 をしてみよう

～実践報告とプチ対話実践～

第四会場 (Q309)

10:00-12:00

produced by 教師塾

テーマ：学校における哲学対話

定員：20～30名

進行役：西尾亮・瀬尾さとみ

学校の先生方を対象にした講座です。

哲学対話を学校の中でどのように取り入れているかについて実践報告を行い、その後、実際に学校で行なっている哲学対話を2種類、参加者の方で実践してみようと思います。

【スケジュール】

導入 自己紹介および本日のご案内

10分 西尾さん 実践報告

10分 瀬尾 実践報告

10分 教材などをシェア

40分 てつがくおしゃべりカードを使って哲学対話

10分 休憩

40分 絵本「私のせいじゃない」を使った哲学対話

テーマ: さわるって何?

定員: 15~20名(こどもから大人まで)

進行役: 黒沢浩・安本志帆

南山大学人類学博物館の、実際に展示物に触れられる特徴を活かし、触るとはどういうことかを、具体的な体験を通じながら対話します。視覚に依拠して生活している「見常者」と、触覚に依拠している「触常者」の両方の参加者を募り、それぞれにとっての「触る」ことを起点としながら、目に偏らない多様な知覚についての知を共有するとともに、その意味するところなどを対話を通じて吟味します。まさに触から発して「触発」されるような対話の場が生まれるにちがいありません。

10時~10時半 さわるワークショップ(進行:黒沢浩)

10時半~11時半 触る哲学対話(進行:安本志帆)

終了後、希望者にワークショップ

MC-4

触る哲学対話

人類学博物館

10:00-12:00

南山大学人類学博物館、CLAFa、犬てつ共同企画

AC-1

時々気まぐれ哲学

第一会場 (Q302)

13:00-14:00

テーマ：言語は経験か？

定員：5名

進行役：原有輝

言語は経験そのものではないが、経験を可能にするものではないでしょうか。経験のない言語、または言語のない経験があるのでしょうか。そのあたりを考えてみたいと思います。

進行役初心者がやる哲学カフェです。

テーマ：価値とは

定員：15名

進行役：寺井哲治

皆さんは「生前見積」という言葉をご存知ですか。周りからは理解されないが、ひたすら集めたマニアックな、しかし大切な宝物。生きているうちに見積りをして散逸することなく、誰かに収集した宝物を引き継ぎたいという気持ちに応えるサービスのようです。

価値というとお金で測れるようにも思いますが、その価値が、人によって違うことは確かなことなのでしょう。何が価値を決めて、どのように変化していくのか。

時間という価値を図ることができないものを皆さんと共有して価値について対話をしてみませんか。

特徴: ゆっくりとお互いの意見を確認しながら対話を進めることで、自分の中にある殻に気が付くことができるような時間になれば良いかと思っています。

AC-2

なごテツ

ちょっと濃い目

第二会場 (Q303)

13:00-15:00

produced by なごテツ

AC-3

こまば哲学カフェ

2017をもう一度

第三会場 (Q308)

13:00-15:00

produced by CLAFA

テーマ：インクルージョンは可能か
定員：30名

進行役：杉本智志・安本志帆

企画者安本が2017年に東京大学で行ったP4E研究会主催「こまば哲学カフェ2017」の続編。

様々な苦勞の当事者をゲストスピーカーにお呼びし「インクルージョンは可能か」というテーマで哲学対話をしたところ、教室に入りきれないほどのご参加があり、興味関心の高さを実感したが、同時に非常に難易度の高い哲学対話となった。今回は、更にバージョンアップし、南山大学で再び試みます。

多様性を認め合う価値のようなものが社会や教育の中にも根付いてきているように思います。では、その「多様性」は、本当に認め合えているのでしょうか。多様性を認め合うこととは、どのようなことなのでしょう。そもそも人は認め合わなくてはいけないのでしょうか。今回も様々な当事者に力をかしていただき、それぞれの立場や苦勞から哲学的な対話を行います。

ゲスト

玉木幸則さん (eテレ『バリバラ』ご出演中)

武田博輝さん (日本ダイバーシティ推進協会代表)

テーマ：文学、社会、そして、
有用性と文化

定員：20～30名

進行役：稲垣早佑梨・

瀬尾さとみ

小泉信三賞全国高校生小論文コンテストで見事受賞を果たした高校生、稲垣さんをお招きして、受賞論文の内容に基づいて対話を行います。課題テーマの「文学は社会の役に立つのか」という問いかけに対して、そのように問う社会こそが問い直されるべきではないかという問題提起を行った稲垣論文をきっかけに、有用性と文化についてみなさんとじっくり考えたいと思います。

【タイムスケジュール】

45分 稲垣さんのプレゼン

10分 休憩

60分 対話

AC-4

しゃりんけん哲学カフェ

高校生が「文学は社会の役に立つのか」と問う社会を問う

第四会場 (Q309)

13:00-15:00

co-produced by 南山大学社会倫理研究所

AC-5-1

ビブリオバトル

第一会場 (Q302)

14:00-15:30

produced by ビブリオバトルの会

定員：発表者は6名程度。

観覧は制限なし。

進行役：ビブリオバトルの
会による進行

ビブリオバトルとは、おすすめ本を持ち寄り、5分間のプレゼンと質疑応答を経て、1人1票でチャンプ本を決める書評合戦です。

発表希望者は、おすすめしたい本を1冊お持ちください（先着6名程度）。

観覧は自由です。

テーマ：本がくれたもの

定員：12名

進行役：ワタナベ

本を読みたくなる理由はたくさんありますが、本がくれたものは何でしょう？ 知らなかった「単語」から

「世界まるごと」まで…。それらは今どこに？

今回はホワイトボードを参加者に開放して、本と同じく視覚も通して、読み、書き、話し、見て、描く哲学カフェ。

「本がくれたもの」から「本にくれてやったもの」まで視野にいれつつ、落書き感覚で自由に「考え」を遊ばせてください。

AC-5-2

読書＋哲学カフェ

第一会場 (Q302)

15:30-17:00

produced by なごテツ

AC-6

対話を深める議論

第二会場 (Q303)

15:00-17:00

produced by なごテツ

テーマ：対話で一番大切なもの

定員：何人でもOK

進行役：寺井哲治

哲学カフェに参加する方は、質の良い対話を期待しているのではないのでしょうか? では、対話で大切なこと、大切な条件は何でしょうか? 対話好きな人による議論で、大切なものを絞り込んでいきたいと思えます。

参加する方は、対話をする時に何が大切なのかを考えていただき、それを発表していただきます。(自分が大切だと考えたことを明記した表示板を用意していただき、わかるようにして進めます。)

進行役が、いくつかのグループに分けて、グループ単位で、自論の正しさを証明する説明をしていきます。途中で、自論を変更しても構いません。

テーマ：運動会×テクノロジー
×哲学の共創を考える

定員：30名

進行役：安本志帆

「未来の運動会」とは、「eスポーツ」という言葉を日本で最初に使い概念を一般化させたゲーム監督/eスポーツプロデューサー犬飼博士によるスポーツ共創の場です。「哲学対話」を共創のベースとし、「運動会」という誰もが思い描く共通の概念を一度壊す作業を行い、運動会とは何かを問いなおし、再構築を目指します。

運動会とは何か、なぜ運動会をするのか、などを考えながら新しい概念の創造にむけての哲学対話を行います。

ゲスト

西翼さん (愛知トリエンナーレ実行委員/運動会協会)

楠本亜紀さん (キュレーター)

AC-7

未来の運動会のための 哲学対話

第三会場 (Q308)

15:00-17:00

produced by CLAF A

AC-8

絵本deおなごテツ

第四会場 (Q309)

15:00-17:00

produced by なごテツ

テーマ：絵本【ぼくを探しに】から

定員：15名（女性限定）

進行役：水野生恵

シルヴァスタインの有名な絵本「ぼくを探しに」から対話を始めます。足りない「かけら」を探しに行く「ぼく」の物語。有名すぎる本なので「それ、知ってる」と思いがちでもありますが、あらためて新鮮な気持ちであじわい、ゆっくりと考えていくと・・・「今のわたし」にしか感じられない新たな発見があるのでは、と思います。そこから浮かび上がるテーマについて対話を深めていきます。

進行役が絵本を見せながら朗読します。その後、10分ほど時間をとって各自気づいたことをメモします。

（その間、絵本も回します）その後、ゆっくりと対話を始めます。途中休憩あり。

シンプルですがいろいろな読み方ができる内容なので、出てきた発言の中から深めていきたいテーマを選ぶのもありかな、と思っています。

哲学横丁で哲学カフェを構える
テナントと、テナントを
やってみたいと思っている
横丁のお客さんが一緒に
哲学カフェについて考
える茶話会です。

定員：ありません

茶話会世話人：奥田太郎

安本志帆

瀬尾さとみ

朝と宵の

テナント茶話会

全体会場 (Q313)

9:00-10:00

17:00-18:00

produced by 哲学横丁なごや

哲学横丁なごや

2018年3月25日

哲学横丁なごや

2018年3月25日

設立

基本コンセプト

上着もお財布もスマホもいったん脇に置いて、居合わせた人の声に耳を傾けたり、少し勇気を出して自分で声を出してみる。そうして、普段あたりまえだと思っていること、どこかざらつきを覚え続けていたことについて、ゆっくりじっくり考えてみる。そんな哲学対話の取り組みは、街なか、学校のなか、病院のなかなど、さまざまな場所と文脈のなかで営まれています。そして、そうした場は、個人によって提供されていることもあれば、グループによって提供されていることもあります。そのやり方も様々。暮らしの表通りからふと横道に入ってみると、そんな多種多様な哲学対話の取り組みに出会える。それが、「哲学横丁なごや」です。

横丁には、数々のテナント（店子）がお店を構えて来客を待っています。横丁とは、テナントとお客さんのどちらもいなければ成立しません。考えてみれば、哲学対話も、場をつくる人と場に訪れる人がいて初めて成り立つ営みです。そして、「哲学横丁」が目指すのは、哲学対話の場をつくる人の集ま

りの場であるとともに、哲学対話の場に訪れる人の集まりの場でもあり、それらが交錯して賑わう小道です。これから哲学対話に参加してみたい人も、哲学対話の場を自分でつくりたい人も、気楽にふらりと立ち寄れる「表通りから横に入った細い道」、そんな、いろいろな人たちが往来する止まり木のような一角が、名古屋に、愛知県に、そして東海地方、中部地方にあるといいな。その思いを形にすべく、「哲学横丁なごや」が生まれました。

もう一言。「なごや」はこの横丁の呼び名です。名古屋人限定というつもりはまったくありません。広く、中部地方の人たちが行き交う小道としてご利用いただきたいと考えています。他方で、匿名であっても顔の見える関わりを大切にしたいとも考えています。だから、あえて地域名を呼び名に入れてみました。

みなさんと一緒に、「哲学横丁なごや」を賑わう小道に育てていけますよう、ぜひこの横丁に足をお運びください。